

平成20年度 栄養関係功労者知事表彰受賞

栄養を治療の基盤と考える

近森病院臨床栄養部が平成20年度栄養関係功労者知事表彰を受賞しました。今回新設された「特定給食施設」部門に「高知県食と栄養の会（会長：上町病院院長田中誠先生）」より推挙いただいたもので、その施設推薦調書をご紹介します。

たいへん過分な評価をいただきました。これもひとえに理事長、管理部長、主治医の先生方からのご指導や他部署のご理解とご協力、そしてなによりベストパートナーである「エムサービス株式会社」のスタッフの皆様のおかげと感謝をしています。この場をお借りして関係各位に厚く御礼申し上げます。

栄えある賞をいただき、これを機に私たち管理栄養士、臨床栄養部はさらに精進してゆく所存です。

（臨床栄養部 部長 宮澤 靖）



食と栄養の会の久病院・和田房子副会長 食と栄養の会の田中会長 2009.04.13 祝賀会で勢揃い。臨床栄養部門スタッフは47人

四半世紀を振り返る



近森 正幸

最近、遙けきもずいぶん遠くまで来たなあ、という感慨をもつことがある。1984年11月、理事長になってからずっと、嵐が吹き荒ぶなかを無我夢中で断崖絶壁をよじ登ってきたように思う。見えるのは目の前の岩壁ばかりで、ただひたすら上を目指していた。

それが、この5年ぐらい前からどううか、山の稜線にフッと出ることができた。抜けるような青空のもとで山々の連なりが眼下に見えて、急に霧が晴れるように視界が開けてきた。医療の全体像が、やっと見えてきた感じである。

ここまで来ることができたのは、病

院の役割は「患者さんを早く治して早く自宅に帰っていただく」ことだという、医療に対するシンプルな考え方をもっていただけではないかと思う。

医療は高価な機器や立派な建物がするのではなく、人間がするものである。だからスタッフのマンパワーを増やし、質を高め、やる気をもたし、いい医療をしようという思いをみんなが共有することで、質の高い医療を提供できるようになる。

トップが自分の財産や土地などの目の先の利益に汲々として、志を高くもたなければ、いい先生方には来てもらえない。人間死ぬときは一畳あれば充分なのだからいつも思う。こうした実践を通じて、近森会グループは、高齢社会の日本における最先端の医療を実践していると自負している。

私は病院を良くすることが好きである。厳しい状況のなかで決断と実行を繰り返していくことは、足が震えるぐらい怖いことだが、だからこそ、それが実現したときの喜びは大きく、これほど面白いことはない。

理事長・ちかもり まさゆき

施設推薦調書

医療法人近森会近森病院は、設立当初から地域医療支援病院として、救急、紹介、入院医療を中心に地域医療を支えると共にチーム医療体制の充実に力を注ぎ、中でも「栄養はすべての治療の基盤」であるとの考えから、平成15年7月、高知県初の栄養サポートチーム(NST)による栄養管理をスタート。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などがそれぞれの専門性を活かし、その患者にとって最適な栄養管理を実施し、急性期、低栄養者の短期回復に貢献している。NSTは全国でも先駆的な取り組みであり、宮澤栄養部長は県内外で講演活動を行いその手法を全国に紹介。さらに、県内の栄養士を対象にした「近森臨床栄養セミナー」を主催するほか、高知県NST研究会事務局、高知県PEG研究会事務局を担うなど、県内外の給食施設の栄養管理の向上に大きく寄与している。一般患者への栄養管理においても、入院時に患者ごとに栄養指示票を用意し病状に基づいて栄養計画を作成。電子カルテシステムで院内各部門での情報共有を行い、個々の状態に適した栄養管理を実施。ハード・ソフト両面で最新の栄養管理体制が整備され、適切に稼働している。栄養・食事指導については、専用室を設置することで指導を受ける患者の精神面に配慮するとともに、患者自身が「実践できる」指導を行うこと（※次頁へ）

で、患者の食生活改善に効果をあげている。また、喫食調査の実施、一般療養食での選択メニューの実施により喫食率向上に向けた調理や盛り付けの工夫、嗜好への配慮を行うほか、毎月2回の行事食を提供するなど喫食者中心の給食への配慮が行われている。さらに、平成18年8月から、ターミナルステージにある患者等に「辰巳芳子さんのいのちを支えるスープ」の提供を開始。食事の経口摂取が困難な患者らが自らこのスープを飲むことで、精神的な満足感、生きる力を得ており、全国でも先進的なスピリチュアルケアとして注目されるなど、給食を通じたメンタルケアにも成果を上げている。衛生管理については、HACCP手法を導入した衛生管理を実施。調理場の区画、保温・保冷配膳車やIH調理器の整備による料理の温度管理、調理場の室温上昇抑制など徹底した衛生管理が実施されている。上記のような栄養管理、食事提供、栄養指導、衛生管理は、他の給食施設の模範であり、表彰されるにふさわしい。

聴診器と私 生活必需品!

近森リハビリテーション病院 2 西病棟
看護師長 西森 明美

私が聴診器を初めて手にしてから??年。もう、記憶の彼方です。聴診器を使い始めた当初は、色々な音を聞いては音の違いを比べ、またテレビで聴診器を肩にかける姿が格好よく見えて憧れていた頃もありました。しかし、月日は流れ、私も就職して17年目を迎えています。就職当時は、リハビリテーション病院だったので頻りに聴診器を使っていました。その後手術室に異動となり、手術室では10年以上勤務しましたが、自動血圧計であり、ほとんど聴診器を手にする事がありませんでした。そして、1年前に異動で再びリハビリテーション病院勤務となり、異動後リハビリテーション病院では聴診器を手にし、患者さんの血圧測定時は、正直手動での血圧測定が久しぶりだったことで、戸惑いもあったのです。以来1年が経過しましたが、その間に聴診器で患者さんのさまざまな音を聞かせてもらいました。今後もいろいろな音を聞かせてもらい看護に役立てていきたいと思っています。



「スタッフ、スタッフ（某芸人風に）」と気軽に声をかけ

近森オルソリハビリテーション病院 院長代行・診療部長 鄭 明守

初めて近森グループにお世話になってから、早くも7年目となりました。いろいろな紆余曲折がありましたが、4月より近森オルソリハビリテーション病院でお世話になることになりました。医師になって以来、麻酔救急医学講座、整形外科と急性期を中心に研修、診療を行ってききましたが、今後は術後リハを中心にコ・メディカルの方との連携が必要であり、オルソスタッフをはじめ皆さんの力をお借りして円滑に術後リハが進むようにしていきたいと思っています。まだまだ慣れないことも多く、これからも困ったことがあれば「スタッフ、スタッフ（某芸人風に）」と気軽に声をかけさせていただきます。よろしくお願いします。



変化 リハビリテーション科 科長 依光 茂太

昨年、今年と変(漢字検定)、Change(アメリカ大統領)といった流行なる言葉が飛びかかっていましたが、私にとっても例外ではなく変化を求められる節目の年となりました。私は、元々は整形外科医として職務していましたが、今年にリハビリテーション科に変わる冒険ともとれる年度となりました。昨年度までは、手術を主に最後まで患者様をフォローできなかったこともありましたが、運動器だけでなく神経系、循環器、呼吸器、心身とも急性期から在宅維持期のフォローができるよう、更なる知識と経験を身につけて変動する医療情勢に対応できるよう自分自身に変革を促そうと考えています。先生方、スタッフの方々のご指導あって実現するものだと思っていますので、よろしくお願い致します。



放射線科 科長 清水 和人

ひとつひとつ習得して

近森病院でめきめきと力をつけたいと意気込んで当院に異動して、はや2年半がすぎました。力がついたかどうか自覚がなく、まだまだ修行の身と考えておりました。そんななか、本年5月1日に放射線科科長の辞令を受けました。科長に就任後は日々身が引き締まるような思いで勤務しています。習得すべき技術・知識は山のようにありますがひとつひとつ習得していこうと考えています。森田先生、宮崎先生、放射線科のスタッフと協力して若輩ものではありませんが近森病院を盛り立てていく所存です。これからもよろしくお願いします。



かなりレアな人種に!?

消化器内科 科長 近森 正康

今年の4月から15年ぶりに高知に帰ってきて、近森病院で働くことになりました。最近2年間は週に一日、一般外来と内視鏡検査をしていたので、ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが。3月までいた病院での専門は消化器内科で、特に胆膵分野を中心に仕事をしていました。胆膵疾患とは胆道(胆管、胆嚢)、膵臓に出来る病気のこと、胆石、胆嚢腺筋腫症、胆嚢癌、胆管癌、膵炎、膵癌などが代表的な疾患です。症例数は比較的多い割に専門医が少ない分野です。実際、胆道学会の会員数は2,200人(消化器病学会は30,000人)とかなりレア(まれ)な人種になっています。そういった専門性を今後少しでも診療に役立てるようがんばっていくつもりです。

恩返しのつもりで

内科 科長 中岡 洋子

考えてみますと、近森病院で初めて働いたのは研修医2年目の半年間でした。その後一時臨床を離れ保健所で勤務したこともありましたが、再度臨床に復帰するにあたり近森病院での修業を希望し、再就職して丸4年がたちました。何とかここまでやってこられたのも上司、同僚、後輩、コ・メディカル、そして患者さんに恵まれていたからだ、これまでを振り返り改めて感謝しています。科長というと何となく緊張するのですが、お世話になった皆様に少しでも恩返しができるよう、これからも肩肘張らずマイペースで、そして笑顔忘れず歩んでいきたいと思っています。

patient first 患者さん第一

循環器科 科長 西田 幸司

近森病院で働かせていただくのは研修医の時以来2回目、今回は2007年5月より勤務しております。当院は虚血性心疾患に対するカテーテル治療(PCI)が中国四国地方で有数の症例数を誇る病院で、"PCIを極めること"を目標としている私には理想的な環境で診療させていただいております。険しく長い道のりですが最高の師匠の指導のもと patient first(患者さん第一)をモットーに修行中です。そんな中、このたび2009年4月よ

最新のエビデンスに基づいて

呼吸器内科 科長 中間 貴弘

呼吸器内科科長の辞令をいただきました。身の引き締まる思いです。呼吸器内科の常勤は私一人で、先輩の石田正之先生に月2回非常勤としてお手伝いいただいています。ですから、マンパワーの点では十分とは言いきれませんが、だからと言って診療の質を下げるのではなく、最新のエビデンスに基づく医療を心がけています。呼吸器内科は2005年7月に新設され、今年5年目を迎える、まだまだ歴史の浅い科です。他科の医師やコ・メディカルの皆さんに支えられてやっとここまでやってきました。本当にありがとうございました。これからさらに良い医療を行なうべく、頑張りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

若手の指導に尽力して

消化器内科 部長 岡田 光生

早いもので近森病院に在籍して満14年となりました。平成7年に赴任したころは榮枝主任部長がその約1年前に赴任したばかりで、まさに消化器内科の立ち上げの時期でした。当時と比べると消化器内科としての診療内容も充実してきたと思いますし、また、内科全体や他科もずいぶん充実してきました。このような時期に近森病院に在籍し、多くのスタッフと力をあわせて邁進してこれたことは大変幸福なことだと思います。この場をお借りしてスタッフの皆様や患者様へお礼を申し上げます。近年、消化器内科にも優秀な若手ドクターが着任しており、新たな時期を迎えている感があります。今後は若手の指導に尽力することで恩に報いたいと思います。



り循環器科長を拝命いたしました。尊敬する"アニキ"である関科長、要科長と同じ役職になってしまうことに重圧と責任の重さを感じておりますが先輩方を見習い、これまでの patient first のみならず後輩の指導や近森病院への貢献を念頭に日々の診療をしていきたいと思っています。

臨床工学部全体の底上げのために努力します!

臨床工学部 急性期 CE チーム 技士長 平野 友紀

臨床現場へのメーカーの立会い規制などにより、年々、臨床工学技士に求められる業務が変化し、職域が拡がりつつあります。その時々での病院のニーズに応え、常に向上心を忘れず、業務に励んでいきます。当院は透析だけでなく、人工心肺や保守管理業務、呼吸管理チームなど業務内容が幅広く、個々の技士に高い能力が求められる職場です。新規業務が増加したからといって、従来業務の質を下げるわけにはいきません。全ての技士が安全な技術・医療機器を提供できるよう、教育にも重点を置き、これからは急性期 CE チームだけではなく、臨床工学部全体の底上げのために努力します。まだまだ未熟で、他スタッフの方には迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願いします。

毎日、嬉々として!

循環器内科 科長 山本 哲史

大学入学以来、高知を離れ、大阪で生活をしておりましたが、「高知で働くなら近森病院」と、以前より考えておりました。今回その夢が叶い、スタッフの一員に加えていただき、毎日嬉々として働いております。近森病院は高知の医療の中心をなす基幹病院であり、その症例数の多さ、医療レベルの高さに感嘆しております。同時に、その一員となること、また仰せつかった科長という役職の責任の重さを実感しております。これからは専門である循環器内科の知識を深めるとともに、近森病院内科で求められている generalist として、幅広い経験、知識、技術の修得にも努めていきたいと思えます。また、心の通ったチーム医療を心がけ、高知の医療に貢献したいと考えております。

若手の指導に尽力して

消化器内科 部長 岡田 光生

早いもので近森病院に在籍して満14年となりました。平成7年に赴任したころは榮枝主任部長がその約1年前に赴任したばかりで、まさに消化器内科の立ち上げの時期でした。当時と比べると消化器内科としての診療内容も充実してきたと思いますし、また、内科全体や他科もずいぶん充実してきました。このような時期に近森病院に在籍し、多くのスタッフと力をあわせて邁進してこれたことは大変幸福なことだと思います。この場をお借りしてスタッフの皆様や患者様へお礼を申し上げます。近年、消化器内科にも優秀な若手ドクターが着任しており、新たな時期を迎えている感があります。今後は若手の指導に尽力することで恩に報いたいと思います。



考えるチーム、気の利くチーム

急性期 CE チーム 主任 長尾 進一郎 (※写真前頁)

月に一度は夢をみます。高校時代の野球部の夢です。しかも「100本ノックの…」過酷なシーンです。目が覚めると安心し「あのシーンに比べると楽勝楽勝」なんてパワーが湧いてきます。それと同時に監督からいつも耳にしていた「今、自分に何ができるかを考えなさい」「気の利く人になりなさい」この言葉が思い出されます。

さてこの度、臨床工学部主任心得を拝命いたしました。透析室を経て急性期 CE チーム発足当初からメンバーの一員となり4年が経ちました。この4年間を振り返りながら、これから自分に何ができるのかを考えている最中です。まずは、考える・気の利く「人」から「チーム」へ視点を変え、信頼するスタッフと共に努力していくことから始めます。今後ともご指導の程よろしく願い申し上げます。

乗り越えられない課題はない！

臨床栄養部 主任 西岡 心大

「臨床栄養管理に携わりたい」という強い思いから、国立病院を辞し、近森会に入職したのが平成17年12月のこと。入職後リハ病院で2年間勤務したのち、1年間長崎リハビリテーション病院の立ち上げに従事させていただき、今年1月から高知に戻り、本院配属となりました。年数とともに成長しているとはとても言い難いのですが、このたび恐れ多くも主任心得を拝命いたしました。急性期病院の経験が無い自分に、果たしてこの重責が務まるのだろうか？と、不安に思ったのも束の間、多くの課題に直面して右往左往する日々です。「天はその人に乗り越えられない課題は与えない」との格言を思い起こし、少しでも多くの患者さんに貢献できるよう、努力したいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



ケアのワンポイントアドバイス 急性期の口腔乾燥症ケア

お口の渇きを感じたら…

近森病院 歯科衛生士 影山 香

一般的に高齢になると唾液の分泌量が減り、お口の乾きを訴える方が多くみられます。急性期の患者さんで、お口が乾燥していることで様々な口腔のトラブルを抱え、口腔ケアが難しかった方の例を紹介します。

食事は経管栄養のみで、ケアは全介助レベルとなっている方です。常に開口したままで口呼吸のため、お口の中はひどく乾燥していました。口蓋に硬くなった痰がこびりつき、粘膜は傷だらけで些細な刺激でもすぐに出血する状態でした。痛みのため口腔ケアに対する拒否があり、強い口臭もみられます。

まずは、痛みなくケアを行うために保湿剤とスポンジブラシ（ハミングッド10本入り）を購入していただきました。保湿剤を粘膜全体にまんべんなく塗布し、固まった痰や血餅をふやかすために1分以上置いてからスポンジブラシで優しくケアします。出血や痛みがひどいと、せつかくの口腔ケアが患者さんにとって苦痛になってしまいます。10本のスポンジブラシがなくなる頃まで保湿を強化していく

と、粘膜の傷は小さくなり出血はほとんどなくなりました。スポンジブラシは使い捨てのため不経済な面もあり、粘膜の傷が落ち着いた頃から保湿剤の使用を継続しながら「くるりナブラシ」に変更していただきました。このブラシで頬や舌にスレッチを加えながらケアすることで唾液分泌を促し、少しずつ乾燥は軽減されて口腔のトラブルも改善されました。唾液の分泌量が減少して口腔の防御作用が損なわれると、口腔内細菌のバランスが崩れ、痰の付着や舌苔が増加し、むし歯や歯周病の重症化による強い口臭が出現します。

水分摂取やうがいで一時的に乾きは癒されても、天然の保湿剤である唾液に勝るものはありません。たくさん会話してよく舌を動かし、若いうちから献立に酢ものや繊維質を加え、唾液を出す工夫をすることが大切です。唾液腺マッサージをすることも有効です。保湿ジェルの種類も豊富になってきていますので、お口の渇きを感じたらぜひお試しください。



乞 援 応 烈

輸血のささやかな道筋になれば…

臨床検査部 主任 米澤 真理子

輸血療法委員会の活動も2001年からで、9年が過ぎました。その間の輸血に関する動きは目を見張るばかりです。血液の安全性もさまざまな工夫で高まって来ております。また、血液センターでは検査や製剤課の集約化が進むなか、近森病院輸血部では次世代を担う若い世代が入り、広がりを見せています。今回の拝命を機に、輸血のささやかな道筋になればと、一層頑張りたいと思っております。

病院の写真倶楽部「瞬」に属して休みに撮影することも気分転換に役立ち、仕事への集中度が高まっています。



成長へのチャンス

第二分院 ストレスケアセンター デイケア「パティオ」 主任 川淵 忠義 (作業療法士)



今年入職して10年という節目に前部署（メンタルクリニックちかもり）より異動となり、このたび主任心得の辞令をいただきました。主任心得といっても、新しい環境に慣れることで精いっぱいであり、周囲のスタッフに助けをもらいながら日々奮闘しています。

今回復職・再就職を軸とするデイケア部署の責任者としての重責を感じながら、その役割に押しつぶされそうなこともあります。これも自己の成長と思いき、与えられた役割に対してしっかりと向き合っていきたいと思っています。

これまでと同じく、さまざまな人との出会いを大切に、謙虚な姿勢でかつ行動力のある人として、努力していきたいと思っております。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導よろしくお願い申し上げます。

気管挿管実習を終えて

土佐市消防本部 三本 敬治

実習が始まった当初は、久しぶりの実習だったし、色々なことが初めてだったので、かなり苦労しましたが、各先生方や看護師さんの手助けがあり、たいへん有意義な実習が出来ました。

ER実習の方は、自分たち救急隊が搬



気管挿管実習修了証授与式で、左から麻酔科・楠目祥雄部長、土佐市消防本部の田原清男警防課救急救助班長、三本救急救命士、近森理事長、川添管理部長

送した患者さんのその後の状態や先生方の処置を見ることができ、救急現場では解らないことやできない処置、色々な症例などを見ることができて、たいへん勉強になりました。この約2カ月間の実習を終えて、今まで以上に患者さんのことを考えながら救急現場で活動しなければならぬと思いました。

そして最後に近森病院手術室で実習させてもらった32症例、各先生方から

ご指導いただいた手技、ERで見せてもらった色々なことを忘れることなく、今後の救急活動にいかしていきたいと思います。2カ月間という長い間、実習のご指導いただきまして、誠にありがとうございました。

わたしのこの一枚 サーティーズ

リハ病院 4階東棟 介護福祉士 高野 直美

2007年度リハビリグループ忘年会の余興後にサーティーズ全員で撮った写真です。サーティーズとは、和田恵美子リハ科長をリーダーとしたリハ病院職員によって結成されたアラサーの余興グループで、新人歓迎会・忘年会などにダンスなどの芸を披露しています。今回は、ミッキーマウスマーチパラバージョンをミニーになりきり踊りました。盛り上がり♪とても楽しかったです！リハビリグループのアラサーの皆さん、入会待ってまーす♪



第13回 チャリティ 薔薇ガーデン・ティー・パーティー参加

健康管理センター 村上 麻世 (旧姓 梶原)

2009年5月16日(土)、鷹匠公園において開かれた「国際ソロプチミストよさこい高知」主催の薔薇パーティーに参加しました。

国際ソロプチミストというのは女性



や女兒の生活を向上させることを目指して、精力的に活動されています。

このたび、日本西リジョン「HIV/エイズのための援

助金」に応募し選外にはなりませんが、よさこい高知クラブから「よさこい高知賞」をいただけることになりました。当日は、緑の芝生の上で色鮮やかに咲き誇る薔薇を眺めながら、特製ばらケーキやローズティーをいただき、優雅な別世界を過ごしてきました。

目録を手にとニコリ村上麻世さんと、推薦者の梶原和歌さん。背景は深紅の薔薇



新シリーズ♥♥♥ 管理部長のこだわり ヘルシー美食



飲酒歴40年余りで飲まなかった日はいったい何日あったらだろうか。それだけの愛飲家に、何と主治医A O先生はいとも簡単に「1ヵ月抜いてみたら」と提案され、うっかりOKしてしまった…。

その間、ゴルフ場の浴室で足指を骨折したり、アルコールの誘惑にWBCのイチローのように心折れそうになったのは幾たびか…。散々な1ヵ月であったが、お蔭さまで肝臓はリフレッシュし、一段と人生が楽しくなりました。リバウンドという言葉をしつかり心に止めて。

今月は池波正太郎の時代小説に出てきそうな、

深川井のあたまだけ

『大人のウオーカー』誌より



画 臨床栄養部科長 吉田 妃佐

〈材料〉アサリ適量（最近高くなったが大ぶりのものを奮発して）。ゴボウ1/2本。卵2個（土佐ジローの小さいのがGOOD）。小ネギ3本・みつば少々、醤油、砂糖適量・だしつゆ（少量）

〈作り方〉①ゴボウは皮をこそげ落して、ささがきにして水に放つ。卵は溶いておく。小ネギは2センチぐらいの長さに切る。アサリは酒蒸ししてカラをとっておく。

②鍋にアサリ（酒つゆも一緒に）・ゴボウ・かぶるくらいの水・だしつゆ・醤油・砂糖を入れ、火にかける。③ゴボウに火が通ったら卵を回しかけて小ネギを散らす。④ふたをしてすぐに火を止めしばらく蒸す。食べる前にミツバを散らしお好みで七味唐辛子を。

〈食べる〉池波正太郎は随分食いしん坊、いや食通であった。私は彼の小説より料理のエッセー本をむしろ愛読している。飲む酒はウイスキーならオンザロックを三杯（恐らくダブルと思う）、日本酒なら三合までと決めていたようだが、これもどうも怪しい。が、「程々に」ということだと思ふ。心しておきたい。少し濃い目の味付けのこの酒肴には、初夏にふさわしいさわやかな土佐の酒が合うと思ふ。

看護部 キラリと光る看護

Part 2

休日管理日直師長の仕事
ご存じですか？



近森病院 看護部長

久保田 聡美

新シリーズ第1回目では、厳しい急性期医療の現場で休日のスタッフを支える休日の管理日直師長のご紹介をしたいと思います。

皆様もご存じのように近森病院は365日24時間体制で救急を受け入れ続けています。平日は地域医療連携室と病棟師長そしてERが主治医や担当医とのタイムリーな情報共有を持ちながら対応していますが、休日はそうはいきません。

ER(救急センター)にも病棟にも限られた人員しかいない休日には入院に救急患者受け入れに必要なベッドを確保するまでにはいろいろな苦勞があります。おまけに最近、常に満床に近い状況です。

そんな厳しい状況で、調整の要となっているのが休日管理日直師長なのです。実際に表にでて調整を行なうのは、ERや病棟リーダーですが、その調整の判断をする場合には悩みはつきものです。理不尽な怒りの感情をぶつけられることも少なくありません。そんな時、休日でも相談できる師長さん

が院内にいるということはとても心強いというスタッフからの声もよく耳にするようになりました。

実はこの役割が出来たのは1年余り前です。私自身、外来師長から今の立場になる過程において外来と病棟の連携がもっと円滑にならないものかと悩んでいました。

そうした状況に一石を投じたいと2007年11月の近森病院師長会で提案し、同年12月からの始動となりました。提案前は、ただでさえ忙しい自部署の業務に加え負担が大きいか、反対も多いのではないかと心配しました。しかし、提案から1週間も経たないうちに希望でどんどん埋まり、あっという間に1カ月の予定表が出来上がってしまいました。

近森病院の実践力の底力を感じた嬉しい瞬間でした。この4月からは、待機場所を外来からICUに移し、休日管理日直師長がつなげる看護を可視化していきたいと思っています。温かい目で見守って下さいね。

リレーエッセイ

暑いときこそ汗をかいて

外部委託検査部門 (SRL)

川村 志穂

もう6月です！梅雨が始まってじめじめと嫌な季節ですが梅雨が明けると本格的に夏です。夏は何か元気になれるし、私にとって一番好きな季節です。今年の夏は何か、今までにやったことのないものに挑戦したいなあと考えています。

去年の冬はマイボードを買ってスノーボードに夢中になりました。まだまだ初心者なので行きたび行きたびアザだらけになり、全身筋肉痛にもなりながら思いっきり楽しみました。楽しんでいただけで上達している気はしませんでした。冬はスノーボードだったら、やっぱり夏は海。海ときたらサーフィンだろう!!と



ということで今年、サーフィンを始めようと思っています。

前までは、自分には体力もなく運動音痴だし、何より日焼けしたくないと思っていましたが、だんだん興味がわいてきて、今ではもう買うボードも決めて夏に向けてやる気満々です!!

今はコツをつかむために休みの日にスケボーして遊んでいます。サーフィンと感覚が似ているらしいので。

休みの日はだら～と寝るのも好きですが、身体を動かして遊ぶことの方が断然楽しいですね。暑いときこそ汗をかいて、健康的に日焼けして、夏を楽しみたいと思っています!

薬用酒アラカルト 31

みょうが酒



今回の材料は、薬味や汁の実に大活躍の「みょうが」です。独特の香りが好まれ、また特有の紅色がきれいな日本独自の香味野菜です。

今回は、近森理事長自らが漬け込まれたものです。

<材料> (密閉容器1リットル分)
みょうが …………… 300g
ホワイトリカー …………… 700ml
<作り方>

①みょうがは水で丁寧に洗い、よく水気をふき取る。②容器に入れ、ホワイトリカーを注ぐ。③2ヵ月ほどで飲めるようになる。

※みょうがの香りの成分には、眠気をさましたり、消化を促進する働きがあるといわれています。辛味成分には解熱作用や解毒作用があるといわれ、夏バテ、ストレス、風邪などに効果があるといわれています。

漬け込んでから約7ヵ月後、黄金色になった「みょうが酒」のひろっぱ編集委員による試飲会を行いました。「ほんのりみょうがの香り」、「食前に飲むと食欲が出そう」、「みょうがのシャキシャキとしたさわやかさが感じられる」などの感想をいただきました。

さっぱりと飲みやすいみょうが酒はロックや炭酸で割って、食前酒に。みょうがが生産高日本一の高知、これからの暑い季節に合いそうです。

(文と画 薬剤部 嶋崎ヨリカ)

2009年	近森会グループ	
	外来患者数	17,162人
	新入院患者数	782人
	退院患者数	828人
4月の診療数	近森病院	
	平均在院日数	14.84日
	地域医療支援病院紹介率	83.60%
	救急車搬入件数	417件
	うち入院件数	210件
	手術件数	379件
	うち手術室実施	250件
うち全身麻酔件数	148件	

企画情報室

ハッスル研修医

子育て研修医 吉本光広

某国立大学工学部を卒業し、32歳で二人の男の子の父親として高知大学医学部に入学して、はや6年、この間、男の子がさらに1人増え3人の父親として今年、近森病院で研修させてもらうことになりました。

ずっとソフトボールや野球をやっているスポーツは見るものではなく、プレイするものだと思ってきた私ですが、最近では自分がプレイするよりも4年生の長男の少年野球に関心がある次第です。ちなみに、次男が2年生、三男が1歳6ヵ月です。女の子が欲しいという意見もありますが、もう子どもは増えない予定です。

これからの初期研修の2年間、高知の人間として地元高知に貢献できるには、どういう医師になるべきか



常に考えていきたいと思っています。分からないことばかりで不安な毎日ですが、ひとつひとつ出来ることを増やしていき、少しでも早く役に立てるように頑張っていきたいと思えます。みなさん、どうかよろしくお願ひします。

アメリカ合衆国で国際麻酔研究学会の発表 出張報告

2009年3月14日～17日まで、International Anesthesia Research Society (国際麻酔研究学会) 年次集会がアメリカはサンディエゴで開かれました。院長初め関係各位の御厚意で、私も参加、発表させていただきました。



Sea Worldのイルカショー

この達成感を
日常の臨床に
生かす努力こそ

近森病院 麻酔科 谷 真規子



海外旅行は初めてではありませんでしたが、今回はツアーにも乗らない完全な一人旅、発表ももちろん英語で行わなければならないし、旅行の間も発表の時も困った時に助け船を出してくれる人は誰もいないということで、ドキドキしながらの出発でした。ささいな事件はありましたが、それも乗り越えて、無事に現地に到着することができました。

サンディエゴは非常に気候の穏やかな、高知のそれに似た陽射しの射す素敵な街で、海もとてもきれいでした。私は学会場まで往復30分程度を毎日散歩しながら通いました。今回の私の発表は、日本で比較的最近使うことができるようになったある麻酔薬を中心として、麻酔薬と術後の悪寒や嘔気嘔吐との関連について考察したものでした。いくつかの質問を受けましたが何とか答えることができ、無事に終了しました。

学会では他に様々な発表、講演を聴くことができました。あるセッションでは、自分が日常臨床で疑問に思っていることを世界の他の麻酔科医も同じように疑問に思っているのだということを知り、興味深くディスカッションを聴くことができました。

またある講演ではいくつかの麻酔薬の臨床使用に関する最新の知見を学ぶことができました。私にとって最も印象的であったのは敗血症管理のストラテジーに関して行われた講演で、そのスタイル、内容ともに素晴らしく、将来的に自分の目標としたいものでありました。この出張を通して様々な意味で貴重な経験をさせていただきました。今後、その経験を日常の臨床に生かすべく努力していく所存です。ありがとうございました。

後期研修医として3年間

忙しくて密度の濃い毎日でした



最強!!の心外チーム

心臓血管外科 研修医 (06.4~08.3) 樽井 俊

近森病院で2006年4月から2009年3月の3年間、後期研修医として勤務しました。もともと関東出身であり、大学も初期研修も東京で行いました。その後、岡山大学心臓血管外科の医局に入局し、外科研修をする目的で近森病院へ来ることとなりました。

まず、前半の1年半は外科で研修させていただきました。外科では虫垂炎や腹膜炎などの緊急疾患や、気胸、ヘルニアやイレウスなどのcommon diseaseを数多く経験することができました。非常に多くの手術につかせていただき、胃癌、大腸癌等の手術を執刀する機会も与えていただき、貴重な経験となりました。また、近森病院は高知県有数の救急病院であり、外科当直ではさまざまな外傷患者を診療する機会がありました。これまで、外傷はおろか、傷の縫合もほとんどしたことがなかった自分にとって外科当直はとても大変なものでしたが、外科や形成外科、脳神経外科、整形外科などの先生方の指導のおかげで何とかこなすことができました。

後半の1年半は心臓血管外科で研修させていただきました。心臓血管外科も症例数が非常に多い、忙しい科で非常に密度の濃い研修を受けることができました。経験、技術ともに未熟で足を引っ張ってばかりでしたが、それでも積極的に第1助手や簡単な手術(時には少し難しい)手術の執刀をさせていただきました。時に厳しい指導もありましたが、精神的に自分に甘いところのある自分にとってはとても有難いことだったと思います。また、最後の3ヵ月は、麻酔科の先生方の下で術前のライン挿入の研修や、循環器内科の先生方の下で冠動脈カテーテルの経験もすることができました。

また、コ・メディカルの皆さんにも大変お世話になりました。近森病院のコ・メディカルの皆さんはとてもフットワークが軽く、積極的に仕事をしてくださる方が多く、とても助かりました。また、高知の県民性でしょうか、よそ者にも親切で明るくやさしい方が多く、僕のような社会的でない人間でも多くの友人を作ることができました。また、だいたいお酒も飲んだように思います……。

いろいろ大変でつらいこともありましたが、非常に充実した楽しい3年間を過ごすことができたのは、近森病院の皆さんのおかげだと思います。本当に有難うございました。また、遊びに行きます!

図書室便り(09年4月受入分)

- Master Techniques in Orthopaedic Surgery Pediatrics / Vernon T.Tolo (他編)
- Master Techniques in Orthopaedic Surgery Knee Arthroplasty Third Editions / Paul A.Lotke (他編)
- Master Techniques in Orthopaedic Surgery THE HAND Second Edition / James W.Strickland (他編)
- Master Techniques in Orthopaedic Surgery FRACTURES Second Edition / Donald A.Wiss (他著)
- Master Techniques in Orthopaedic Surgery THE HIP Second Edition / Robert L.Barrack (他編)
- Master Techniques in Orthopaedic Surgery THE ELBOW Second Edition / Bernard F.Morrey (他著)
- Master Techniques in Orthopaedic Surgery THE SHOULDER Second Edition / Edward V.Craig (他編)
- Master Techniques in Orthopaedic Surgery THE SPINE Second Edition / David S.Bradford (他著)
- 最新整形外科学大系 8 手術進入法—下肢 / 越智光夫 (他専門編集)
- マネジメントツールとしての看護必要度 第2版 / 嶋森好子 (他編集)
- 平成20年版 看護白書 多様な勤務形態導入へのチャレンジャー看護職定着に向けて— / 日本看護協会 (編集)
- 社会保障の手引 施策の概要と基礎資料 H21.1月改定 / 中央法規出版 (編集)
- 生活保護手帳 2008年版 / 生活保護手帳編集委員会 (編集)
- はい・まっぶ高知市中央部 (旧市) '08年 / セイコー社 (編集)
- ベンチマーク分析によるDPC対応医療サービスの評価のための臨床指標の応用 / 秦 温信 (他編著)
- 第39回日本看護学会論文集 看護管理 / 日本看護協会 (編集)
- 《寄贈本》・平成20年版 医療六法 / 医療法制研究会 (編集)
- 《別冊・増刊号》・別冊整形外科 No.55 創外固定の原理と応用 —基礎から新しい臨床展開まで / 四宮謙一 (編集)
- 別冊医学のあゆみ —麻酔科学 UP DATE 学術の進歩と臨床麻酔の安全性 / 土肥修司 (編集)
- 腎と透析 Vol.66 別冊 腎不全における外科領域のかかわり方 / 大平整爾 (他著)
- デンタルハイジーン別冊 歯科衛生士のためのペリオドンタルメディシン 全身の健康と歯周病とのかかわり / 沼部幸博 (他編著)
- こころの科学 増刊 日本の教育はどうなるか 教育改革の失策を問う— / 赤田圭亮 (他編集)
- HEART nursing 2009年新春増刊 ナースのための心臓リハビリテーション完全ガイド / 吉田俊子 (他編集)
- 総合臨牀 2009年増刊 今すぐに役立つ輸液ガイドブック / 飯野靖彦 (他著)
- 《DVD・ビデオ》・Audio-Visual Journal of JUA Vol.15 No.2 / 日本泌尿器科学会 (監修)
- わかる塩酸基平衡・血液ガスデータ 看護記録の監査・オーディット集 (重症集中ケア Vol.8 No.1 付録) / 日総研出版 (監修)

※診療数は誌面の都合により6面です。

編集室通信

▼4月1日付で3年4ヵ月在席した診療情報管理室から総務課へ異動しました。一変した日常業務に戸惑いながらも、皆様の助けに救われている毎日です。抜かりが多い私だけにご迷惑をお掛けすると思いますが、よろしくお願ひいたします。(鍵本)

● 6月の歳時記 ●

紫陽花 あじさい

文 オルソリハビリテーション病院

事務部 医事課 西内 和美



梅雨の季節になりました。鮮やかに花をつける紫陽花。この花ほど雨が似合う花が他にあるでしょうか。咲いている間だんだん色が変わることから「七変化」と呼ばれているそうです。そのためか花言葉は「移り気」。そして季節も変わり目。

色の変化に富む紫陽花を見ていると、雨上がりの虹を彷彿とさせて晴れ晴れとした気分になりますか。



画 イラストレーター 千光士可苗